

茨城県教育財団文化財調査報告第96集

主要地方道土浦江戸崎線道路改良  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

於 山 遺 跡

平成7年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第96集

# 主要地方道土浦江戸崎線道路改良 工事地内埋蔵文化財調査報告書

おい やま い せき  
於 山 遺 跡

平成7年3月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

## 序

茨城県は、21世紀の到来を目前にして、長期的な展望のもとに県土の総合的な基盤整備を推進しております。県南地域におきましても、広域的な連携を深める交通体系の整備に努めております。

主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事は、この趣旨のもとに計画されたもので、その予定地内には、埋蔵文化財の包蔵地である於山遺跡が確認されております。

このたび、財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成5年7月から9月にかけて、主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりました。

本書は、於山遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育・文化向上の一助として活用されますことを希望いたします。

なお、発掘調査および整理にあたり、委託者である茨城県はもとより、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から、ご指導・ご協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成7年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 磯田 勇

# 例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成5年7月から同年9月まで実施した、茨城県稲敷郡阿見町に所在する、於山遺跡の発掘調査報告書である。

なお、遺跡の所在地は次の通りである。

茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷1,284番地ほか

2 於山遺跡の調査及び整理に関する教育財団の組織は、次の通りである。

理 事 長	磯 田 勇	昭和63年6月～	
副 理 事 長	角 田 芳 夫	平成3年7月～平成6年3月	
	小 林 秀 文	平成6年4月～	
専 務 理 事	中 島 弘 光	平成5年4月～	
事 務 局 長	藤 枝 宣 一	平成4年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	安 藏 幸 重	平成5年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 飼 敏 夫	平成4年4月～
	係 長	根 本 達 夫	平成6年4月～
	主 任 調 査 員	川 井 正 一	平成5年4月～平成6年3月
	主 任 調 査 員	海 老 澤 稔	平成6年4月～
	主 事	杉 山 秀 一	平成4年4月～平成6年3月
経 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成5年4月～
	課 長 代 理	鈴 木 三 郎	平成5年4月～
	係 長	大 高 春 夫	平成6年4月～
	主 任	飯 島 康 司	平成4年4月～平成6年3月
	主 事	軍 司 浩 作	平成5年4月～
調 査 課	課長(部長兼務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～
	調査第三班長	鈴 木 美 治	平成5年4月～平成6年3月
	主 任 調 査 員	海 老 澤 稔	平成5年7月～平成5年9月調査
	主 任 調 査 員	矢ノ倉 正 男	平成5年7月～平成5年9月調査
整 理 課	課 長	阿久津 久	平成5年4月～
	主 任 調 査 員	矢ノ倉 正 男	平成6年10月～平成7年3月整理・執筆・編集

3 本書に使用した記号等については、第3章第1節3「遺構・遺物の記載方法」の項を参照されたい。

4 発掘調査及び整理に際して、ご指導・ご協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

## 5 遺跡の概要

ふりがな	しゅようちほうどうつちうらえどさきせんどうろかいりょうこうじちないまいぞうふんかざいちようさほうこくしょ						
書名	主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書						
副書題	於山遺跡						
巻次							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第96集						
編著者名	矢ノ倉正男						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 ☎0292-25-6587						
発行年月日	1995(平成7)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おい やま い せき 於山遺跡	いばらきけんいなしきぐん 茨城県稲敷郡 あ み まちあらかわほんごう 阿見町荒川本郷 ばんち 1,284番地ほか	0 08443   69	36度  01分  08秒	140度  10分  14秒	19930701  )  19930930	2,730㎡	主要地方道土 浦江戸崎線道 路改良工事に 伴う文化財発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		備考
於山遺跡	遺物散布地 信仰塚	縄文時代 (早期～後期)	土坑 13基		縄文式土器 (茅山下層) (浮島 I) (諸磯 b) (粟島台) (加曾利 E) (安行 I)  磨製石斧・凹石		
		江戸時代	溝 塚	3条 2基	陶器片 土製品		

# 目 次

序	
例言	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第3章 位置と環境	1
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺跡	4
第1節 調査方法と遺構・遺物の記載方法	7
1 地区設定	7
2 基本層序の検討	7
3 遺構・遺物の記載方法	8
第2節 遺跡の概要	8
第3節 遺構と遺物	8
1 溝	8
2 土坑	11
3 塚	16
4 遺構外出土遺物	18
第4節 まとめ	20
写真図版	

## 挿 図 目 次

第 1 図	於山遺跡調査区割図	2
第 2 図	周辺遺跡分布図	6
第 3 図	調査区呼称方法概念図	7
第 4 図	基本土層図	7
第 5 図	第 1 号溝実測図	8
第 6 図	第 2・3 号溝実測図	10
第 7 図	第 6 号土坑実測図	11
第 8 図	第 7 号土坑実測図	12
第 9 図	第 12 号土坑実測図	12
第 10 図	第 25・32・34・35 号土坑実測図	14
第 11 図	第 39・43・47～49・52 号土坑実測図	15
第 12 図	第 1 号塚実測図	16
第 13 図	第 2 号塚石碑拓影図 (写真)	17
第 14 図	遺構外出土遺物実測図 (1)	18
第 15 図	遺構外出土遺物実測図 (2)	19
第 16 図	遺構外出土遺物実測図 (3)	20

## 付 図

付図 1 於山遺跡全体図

## 表 目 次

表 1	於山遺跡周辺遺跡一覧表	5
表 2	土坑一覧表	13

## 写真図版目次

- P L 1 於山遺跡全景・試掘状況・遺構確認状況・土坑完掘状況
- P L 2 土坑完掘状況・溝完掘状況・塚調査状況
- P L 3 出土遺物

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経過

茨城県は、県民福祉の向上に努めるとともに、21世紀の新しい時代を先導していく県としての発展や、県民が誇りをもてる豊かな社会づくりなど、茨城の新たな時代の創造を目指している。道路網の整備についても、ゆとりある社会の実現を目指して、快適な道路空間の整備を進めている。

主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事は、この趣旨のもとに計画されたものである。

平成4年7月10日、茨城県（土浦土木事務所）は、茨城県教育委員会に対し、主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内における埋蔵文化財の有無について照会した。これに対し、茨城県教育委員会は、現地踏査を実施し、工事予定地内に於山遺跡の存在を確認した。茨城県教育委員会は、平成5年1月19日、文化財保護の立場から茨城県と遺跡の取り扱いについて協議をした。その結果、現状保存が困難であることから、発掘調査による記録保存の措置を講じることにした。平成5年2月2日、茨城県教育委員会は、茨城県に調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

当教育財団は、茨城県と詳細な調整を重ね、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成5年7月1日から同年9月30日にかけて、於山遺跡の発掘調査を実施することになった。

## 第2節 調査経過

茨城県教育財団は、於山遺跡の発掘調査を、平成5年7月1日から同年9月30日までの3か月にわたって実施した。以下、調査の経過について、その概要を記述する。

7月上旬 発掘調査を行うための倉庫及び休憩所を設置した。調査前状況の写真を撮影し、調査区の清掃を行い、14日には関係者列席のもと鍬入れ式を挙行し、調査の円滑な推進と安全を祈願した。

7月下旬 調査区に4m×4mのグリッドを調査区面積全体の16分の1の割合に設定し、手掘りによる試掘を開始した。遺構の存在を確認し、縄文式土器片を少数採集した。試掘グリッドを全体の面積の4分の1まで拡大した。現況が畑だった調査区南側半分は、表土も浅かったので人力で表土除去を開始した。

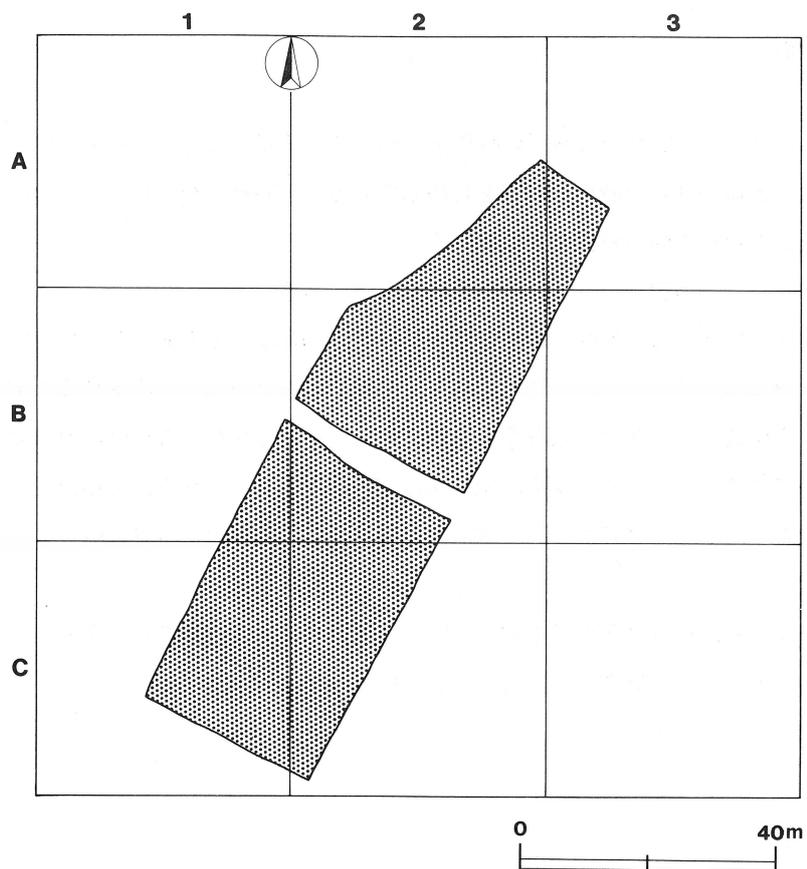
8月上旬 調査区の北側半分は木や篠竹が密生した林だったので、業者に委託して伐開を行った。続けて、重機による表土除去を9日に開始し17日に終了した。表土除去に合わせて遺構確認作業を行い、ローム面に黒色土に覆われた土坑を確認した。量的には少ないが、縄文式土器の採集が続いた。8月半ばごろは、雨のため作業が進まず悩まされた。

8月下旬 19日に基準杭打ち（茨城県建設技術公社に委託）を実施した。調査区南側に、第1号塚を取り囲むような形の、溝と思われる遺構を確認した。タワーを使用して、遺構確認状況の写真を撮影し、調査区北側の土坑から掘り込みを開始した。第1号塚の墳丘測量図を作成した。

9月上旬 土坑と溝の調査を継続。第1号塚の調査区内の部分（塚の東側部分）の表土除去を行い、土層図を作成した。第2号塚に立て掛けてあった石碑の写真撮影を行うとともに、数枚の石碑について拓本をとった。

9月下旬 土坑、溝、塚の調査を終え、タワーを使用して完掘状況の写真撮影を行い、27日から補足調査を実

施した後，30日までに撤収を完了した。



第1図 於山遺跡調査区割図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

於山遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷1,284番地ほかに所在する。

於山遺跡の所在する阿見町は、関東平野の北東部、利根川沿岸から霞ヶ浦沿岸にかけて広がる常総台地の一部をなす筑波・稲敷台地の北東部に位置し、地勢は概して平坦で、町の北東部は約5kmにわたり霞ヶ浦に面している。東は美浦村と境を接し、南は江戸崎町・牛久町と接し、西においては土浦市に接し、北は霞ヶ浦をはさんで新治郡出島村に対してはいる。

阿見町の地形は、筑波・稲敷台地の北東部をしめる洪積台地と、清明川・桂川・乙戸川・花室川及び、霞ヶ浦の沿岸の沖積低地に大きく分けられる。洪積台地は、町の土地面積の約80%を占め、畑・山林・宅地の順で利用され、町の沖積低地の大部分は水田として利用されている。洪積台地の標高は、約30m前後から24m前後にわたっていて、東から西に徐々にその高度を下げていく。東高西低の傾斜を持つ町の台地は、清明川・桂川・乙戸川・花室川によって解析され、台地には複雑な樹枝状の谷津が刻まれている。

於山遺跡周辺の台地を形成する地層は、成田層を中心として、成田層の上位には、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、新期ローム層（武蔵野ローム層・立川ローム層に相当）が堆積し、成田層の下には<sup>やぶ</sup>藪層が堆積している。

於山遺跡の西を流れる乙戸川は、土浦市の乙戸沼を水源とし、土浦市荒川沖町から阿見町荒川本郷地内に入り、町の南部を東南に流れて福田地先で牛久市に流入する。井の岡で桂川を合わせ、島田付近で小野川に合流し、霞ヶ浦に流入する。町内を流れる乙戸川の支流は、荒川本郷・実穀・小池上長・吉原・福田などで谷津を形成している。乙戸川沿岸の谷津は概して浅く長いものが多い。

於山遺跡は、乙戸川の河岸の標高20~22m、水田面との比高およそ2mほどで、西側と南側に広がる水田へ向かう緩やかな傾斜面に位置している。

#### 参考文献

- (1) 阿見町 『阿見町史』 1983年3月
- (2) 茨城県農地部農地課 『土地分類基本調査 土浦』 1983年12月
- (3) 蜂州紀夫 『茨城県 地学のガイド』 1986年11月

## 第2節 歴史的環境

於山遺跡〈1〉の所在する地域は、大小の河川、低地、台地と、変化に富んだ自然環境を有し、台地上には数多くの遺跡が残っている。特に、小野川水系や乙戸川水系によって形成された台地上には、縄文時代から江戸時代の遺跡が密に分布している。

於山遺跡周辺の各時期の遺跡の分布状況を見ると、次のような様相である。

縄文時代の遺跡は、土浦市の右靱地区に、木の宮南遺跡A〈2〉(早期・前期・晩期)、木の宮南遺跡B〈3〉(早期)、木の宮南遺跡C〈4〉、峰崎遺跡A〈5〉(中期・晩期)、峰崎遺跡B東・B西〈6〉(中期)、峰崎遺跡C〈7〉(中期)、権現前遺跡〈8〉(中期)、宮前遺跡〈9〉、右靱貝塚東遺跡〈10〉、宮塚遺跡〈11〉など、遺跡が集中してみられる。このうち、右靱貝塚東遺跡と宮塚遺跡が調査され、それぞれ縄文時代前期の遺構と土器とが確認されている。乙戸沼の近辺では、乙戸川の川岸の南面する低い丘の上に後門遺跡がある。乙戸川を下って、於山遺跡の近くには、縄文中期の塚下遺跡〈18〉と沖新田道祖神前遺跡〈19〉の2つの遺跡が、乙戸川を挟む形で位置している。小野川流域では、於山遺跡の南西約5kmの地点の、小野川に西から入り込む支流が南北に分かれる台地上には、下大井遺跡〈22〉、大井遺跡〈28〉、守子橋遺跡〈36〉、山際B遺跡〈44〉などが分布している。さらに、小野川を下ると、権現山上地遺跡〈49〉がある。いずれも、縄文式土器の散布が確認できる。

弥生時代の遺跡としては、土浦市の木の宮南遺跡Aや小野川右岸の台地縁辺部に牛久市の坂本遺跡〈27〉などがあり、縄文式土器とともに弥生式土器の散布が見られる。

古墳時代の遺跡は、土浦市右靱地区に、木の宮遺跡B、峰崎遺跡C、権現前遺跡、小谷遺跡〈12〉などがある。乙戸沼付近では高山遺跡〈14〉と後門遺跡があり、乙戸川上流域の土浦市荒川沖には塚下遺跡と沖新田道祖神遺跡がある。ともに古墳時代の土師器の散布が見られる。乙戸川右岸の阿見町中根遺跡〈33〉では、土師器や須恵器の散布が確認できる。牛久市の小野川左岸域の古墳時代の遺跡は、大久保遺跡〈24〉、馬場遺跡〈25〉、行人田遺跡〈26〉、坂本遺跡、根柄遺跡〈41〉、梨の木遺跡〈43〉、宮の台遺跡〈46〉、東山遺跡〈51〉、中久喜遺跡〈52〉、ヤツノ上遺跡〈53〉、中下根遺跡〈54〉などである。このうち、調査されている遺跡は、東山遺跡、中久喜遺跡、馬場遺跡、中下根遺跡、ヤツノ上遺跡であり、古墳時代中期の集落が確認されている。

於山遺跡の周辺には古墳の数も多い。阿見町には大塚古墳〈20〉や北古辺古墳〈21〉、内記古墳群〈32〉、だめき古墳〈34〉、実穀古墳群〈35〉などがある。荃崎町には、下大井古墳群〈23〉、五十塚古墳群〈29〉などがある。牛久市では、道山古墳群〈37〉、宮坂古墳〈39〉、愛宕脇古墳〈42〉、琴塚古墳〈47〉、水落下古墳〈48〉などがある。このうち、道山古墳群の3号墳・4号墳・5号墳からはそれぞれ直刀が出土している。

奈良・平安時代の遺跡としては、土浦市の乙戸町庚申塚がある。また、中久喜遺跡やヤツノ上遺跡からも、平安時代の住居跡や土坑が確認され、土師器の甕・高台付杯・高台付皿、須恵器の甕・高杯・杯・杯蓋などが出土している。

江戸時代の遺跡としては、東狸穴一里塚がある。国道六号線の両側に円形で直径10m前後の塚が2基現存している。

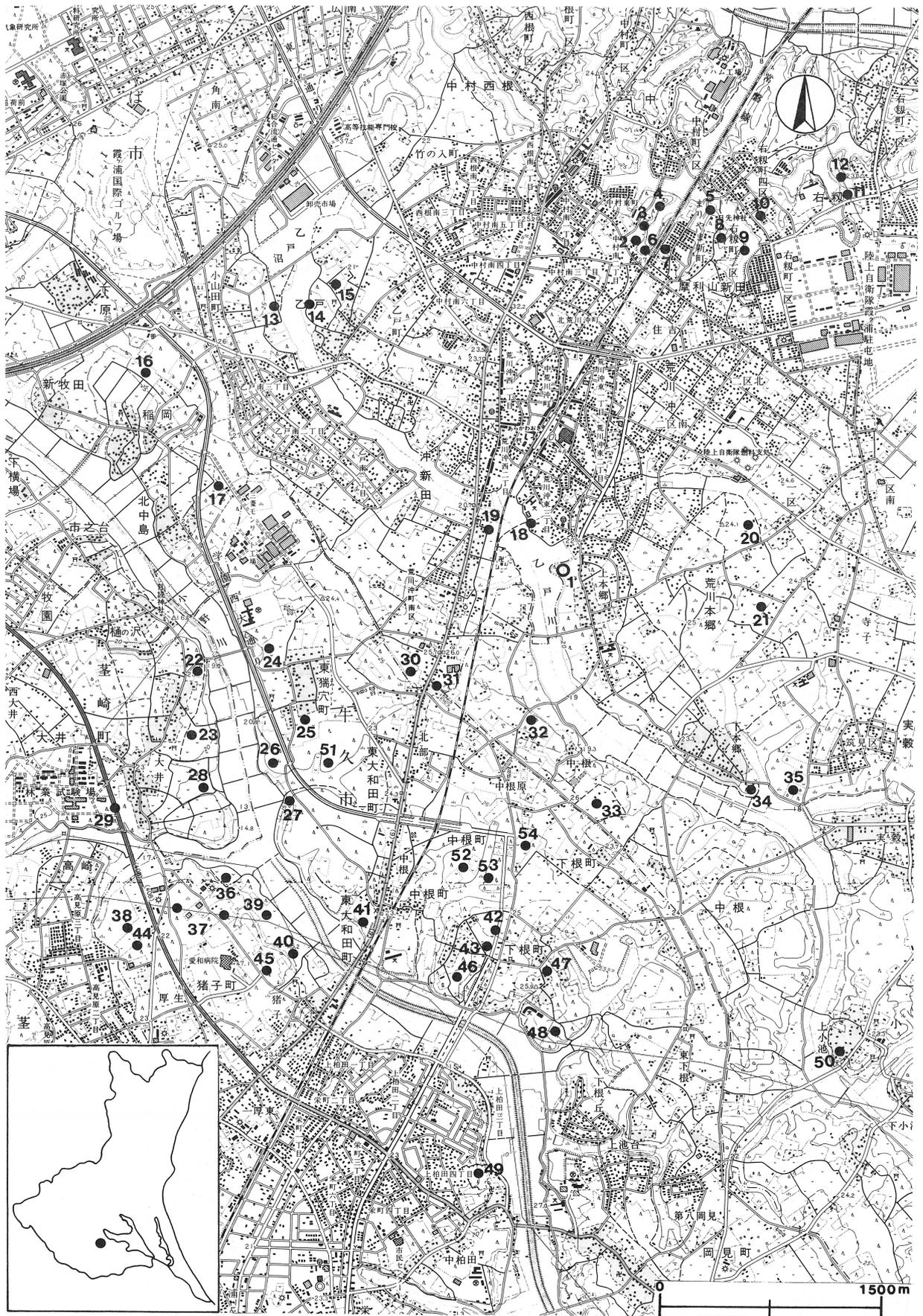
### 参考文献

- (1) 茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』 1990年3月

- (2) 阿見町町史編纂委員会 『阿見町史』 1983年3月
- (3) 土浦市教育委員会 『土浦の遺跡 埋蔵文化財包蔵地』 1984年3月
- (4) 牛久市教育委員会 『牛久町史 史料編(一)』 1979年3月
- (5) 荃崎村教育委員会 『荃崎村史』 1973年3月
- (6) 茨城県教育財団 『牛久北部特定土地画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ) ヤツノ上遺跡』  
「茨城県教育財団文化財調査報告第81集」 1993年3月
- (7) 茨城県教育財団 『牛久北部特定土地画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 中久喜遺跡』  
「茨城県教育財団文化財調査報告第86集」 1993年9月

表1 於山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						
			縄文	弥生	古墳	奈平	鎌室	江戸				縄文	弥生	古墳	奈平	鎌室	江戸	
1	於山遺跡	5701	○					○	28	大井遺跡	2808	○						
2	木の宮南遺跡A	5201	○	○					29	五十塚古墳群	1723			○				
3	木の宮南遺跡B	5202	○		○				30	荒川沖一里塚	1794	○						
4	木の宮南遺跡C	5203	○						31	東狸穴一里塚	3991							○
5	峰崎遺跡A	5204	○						32	内記古墳群	5702			○				
6	峰崎遺跡B東・B西	5205	○						33	中根遺跡	5703			○				
7	峰崎遺跡C	5206	○		○				34	だめき古墳	5698			○				
8	権現前遺跡	5207	○		○				35	実穀古墳群	5697			○				
9	宮前遺跡	5208	○						36	守子橋遺跡	2794	○						
10	右靱貝塚東遺跡	5209	○						37	道山古墳群	1706			○				
11	宮塚遺跡	5210	○						38	山際A遺跡	3367			○				
12	小谷遺跡	5211			○				39	宮坂古墳	3368			○				
13	高山遺跡	5242			○				40	中宿遺跡	3369			○				
14	後門遺跡	5243	○		○				41	根柄遺跡	3371			○				
15	乙戸町庚申塚	5244					○		42	愛宕脇古墳	3372			○				
16	稲岡遺跡	2902			○				43	梨の木遺跡	3373			○				
17	北中島遺跡	2903			○				44	山際B遺跡	3374	○						
18	塚下遺跡	5240	○		○				45	古屋敷遺跡	3775			○				
19	沖新田道祖神前遺跡	5241	○		○				46	宮の台遺跡	3776			○				
20	大塚古墳	5699			○				47	琴塚古墳	3377			○				
21	北古辺古墳	5700			○				48	水落下古墳	3778			○				
22	下大井遺跡	2811	○						49	権現山上池遺跡	3380	○		○				
23	下大井古墳群	5730			○				50	上小池城跡	3982							○
24	大久保遺跡	3363			○				51	東山遺跡				○				
25	馬場遺跡	3364			○				52	中久喜遺跡				○	○			
26	行人田遺跡	3365			○				53	ヤツノ上遺跡		○		○	○			
27	坂本遺跡	3366		○	○				54	中下根遺跡				○				



第2図 周辺遺跡分布図

# 第3章 遺 跡

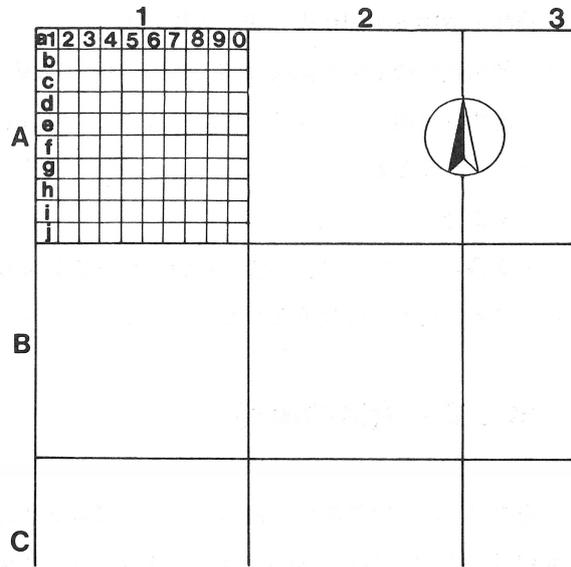
## 第1節 調査方法と遺構・遺物の記載方法

### 1 地区設定

於山遺跡の発掘調査を実施するに当たり、遺跡及び遺構の位置を明確にするため調査区を設定した。

調査区の設定は、日本平面直角座標第IX系、X軸（南北）・Y軸（東西）を基準点として、40m方眼を設定し、この40m四方の区画を大調査区（大グリッド）とした。さらに、この大調査区を東西、南北に各々十等分して、4m四方の小調査区（小グリッド）を設定した。

調査区の名前は、アルファベットと算用数字を用いて表記した。まず、大調査区の名前は、北から南へA、B・・・、西から東へ1、2・・・とし、その組み合わせで「A1区」、「B2区」・・・のように称した。さらに、大調査区を4m方眼に100分割した小調査区をそれぞれ同様に、北から南へa、b・・・j、



第3図 調査区呼称方法概念図

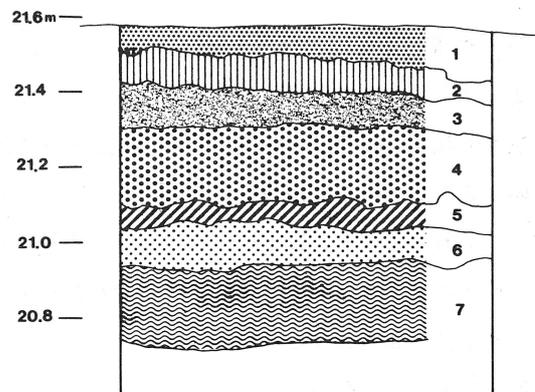
西から東へ<sub>1, 2, ..., 9, 0</sub>と小文字を付した。各小調査区の名前は、大調査区の名前と合わせて、「A1a<sub>1</sub>」区、「B2b<sub>2</sub>」区のように呼称した。（第3図）

遺跡における基準点の座標は、「A1a<sub>1</sub>」 X = +2,240m Y = +30,360m

### 2 基本層序の検討

於山遺跡においては、調査区中央部のB2c<sub>4</sub>区にテストピットを設定し、第5図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は、ローム粒子・ローム小ブロックを含む褐色の漸移層で厚さは10~20cmである。第2層は暗褐色土ブロックを少量含むソフトローム上層で厚さは6~20cmである。第3層はソフトローム下層で、厚さは20~25cmである。第4層は粘土ブロックを少量含むローム層で、厚さは約40cmである。第5層は砂粒を少量含むにぶい褐色の粘土層で厚さは10~20cmである。第6層は砂粒を中量含む浅黄色の粘土層で厚さは15~25cmである。第7層は砂粒を少量含む鈍い褐色の層で厚さは約40cmである。



第4図 基本土層図

於山遺跡の遺構は第2層上面で確認されている。

### 3 遺構・遺物の記載方法

本書における遺構及び遺物の記載方法は、以下のとおりである。

#### (1) 使用記号

遺構 堀・溝—SD 土坑—SK

#### (2) 土層の分類

土層観察における色相の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 日本色研事業株式会社）を使用した。

#### (3) 遺構・遺物実測図作成方法と掲載方法

① 於山遺跡の遺跡全体図は縮尺400分の1，遺構図は縮尺60分の1にした。

② 遺物は原則として3分の1に縮尺した。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては，=1/2等と表示した。

#### (4) 遺構番号

遺構番号については，調査の過程において遺構の種別ごと・調査順に付したが，整理の段階で遺構でないかと判断したものは欠番とした。

## 第2節 遺跡の概要

於山遺跡は，阿見町役場から西へ約4.5km，標高20mほどの乙戸川の河岸に位置する。現況は畑で，今回の調査面積は2,730㎡である。調査によって確認された遺構は，溝3条，土坑13基，塚2基である。遺物の量は比較的少なく，縄文式土器片，土製品，陶磁器，石製品などが出土している。

## 第3節 遺構と遺物

### 1 溝

本遺跡では3条の溝が確認されている。

#### 第1号溝（第5図・付図1図）

**位置** 調査区の中央部で確認されている。

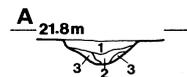
**規模と形状** 上幅で0.65m～0.50m，下幅0.25～0.10mで，断面形は「〜」状を呈する。

**方向** 北西から南東に伸びている。（N-45°-W）

**覆土** 3層から成る。第1層はローム粒子中量，ローム中ブロック中量含む褐色土層である。第2層はローム粒子多量，ローム中ブロック少量含む褐色土層である。第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土層である。自然堆積と考えられる。

**遺物** 出土していない。

**所見** 性格は不明であるが，第2号溝と同じく江戸時代と考えられる。



第5図 第1号溝実測図

### 第2号溝 (第6図)

**位置** 調査区の南部で確認されている。

**規模と形状** 上幅で2.70m～1.05m, 下幅0.50～0.20mで, 深さは0.80～0.45mである。断面形は「 $\sim$ 」状を呈する。C2e<sub>3</sub>区を起点に, 一方は南西(N-220°-W)方向に直線的に伸びる。もう一方は北西(N-40°-W)方向に3.50mほど進んだ後, ほぼ直角に向きを北東(N-50°-E)方向にかえ, 12.2mほど進んで, 再び向きを北西(N-45°-W)方向に変えて調査区境界線まで伸びる。雨が降ると, 溝は水路になって, 西側と南側とになだらかに下る谷津に向けて流れる。

**覆土** C-6層から成る。第1層はローム粒子中量, ローム中ブロック中量含む褐色土層である。第2層はローム粒子中量, ローム中ブロック少量含む褐色土層である。第3層はローム粒子多量, ローム中ブロック少量含む褐色土層である。第4層はローム粒子多量, ローム中ブロック少量含む明褐色土層である。第5層はローム粒子を中量含む明褐色土層である。第6層はローム粒子を多量に含む明褐色土層である。自然堆積。

E-4層から成る。第1層はローム粒子中量, ローム中ブロック中量含む褐色土層である。第2層はローム粒子多量, ローム中ブロック少量含む褐色土層である。第3層はローム粒子を中量含む明褐色土層である。第4層はローム粒子を多量に含む明褐色土層である。自然堆積。

G-5層から成る。第1層はローム粒子中量, ローム中ブロック中量含む褐色土層である。第2層はローム粒子中量, ローム中ブロック少量含む褐色土層である。第3層はローム粒子多量, ローム中ブロック少量含む褐色土層である。第4層はローム粒子多量, ローム中ブロック少量含む明褐色土層である。第5層はローム粒子を中量含む明褐色土層である。自然堆積。

H-3層から成る。第1層はローム粒子中量, ローム中ブロック少量含む明褐色土層である。第2層はローム粒子多量, ローム中ブロック少量含む褐色土層である。第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土層である。自然堆積と考えられる。

**遺物** 覆土から瀬戸産の陶器片が出土している。

**所見** 性格は不明であるが, 出土遺物から江戸時代と考えられる。

### 第3号溝 (第6図)

**位置** 調査区の南部で確認。

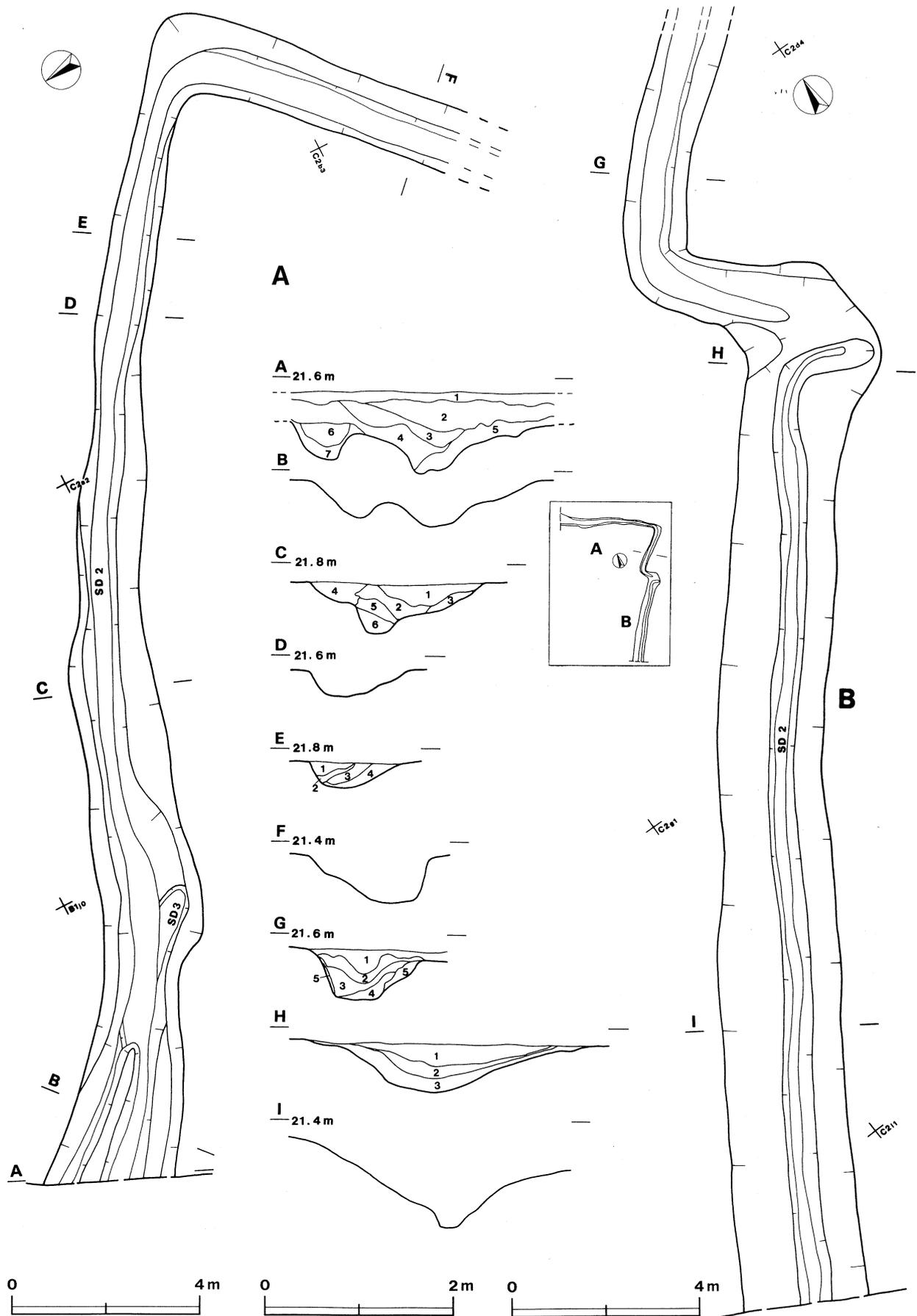
**規模と形状** 上幅で1.30m～0.60m, 下幅約0.20mで, 深さは約0.75mである。断面形は「 $\sim$ 」状を呈する。

B2j<sub>1</sub>区を起点に, 南西(N-15°-E)方向に4mほど伸びている。第2号溝と重複する。土層観察から, 第3号溝が第2号溝より古いと考えられる。

**覆土** A-第2号溝と第3号溝重複。7層から成る。第1層はローム粒子微量, 炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第2層はローム粒子少量, 炭化粒子微量含む暗褐色土層である。第3層はローム粒子を中量含む暗褐色土層である。第4層はローム粒子を中量含む暗褐色土層である。第5層はローム粒子を多量に含む暗褐色土層である。第6層はローム粒子を少量含む暗褐色土層である。第7層はローム粒子を少量含む暗褐色土層である。自然堆積と考えられる。

**遺物** 出土していない。

**所見** 性格は不明であるが, 第2号溝と同じく江戸時代と考えられる。



第6图 第2·3号沟实测图

## 2 土坑

遺構確認の段階でSK-52まで土坑番号を付けたが、調査の結果風倒木痕の類と判断したものも多く、最終的には13基の土坑を確認している。そのうち、特徴ある土坑3基について解説を加え、他の土坑については一覧表にまとめ実測図を掲載する。

### 第6号土坑（第7図）

**位置** 調査区北部，B2b<sub>4</sub>区を中心に確認。

**規模と平面形** 長径2.00m，短径1.35mの長楕円形で深さは0.95mである。

**長径方向** N-57°-E

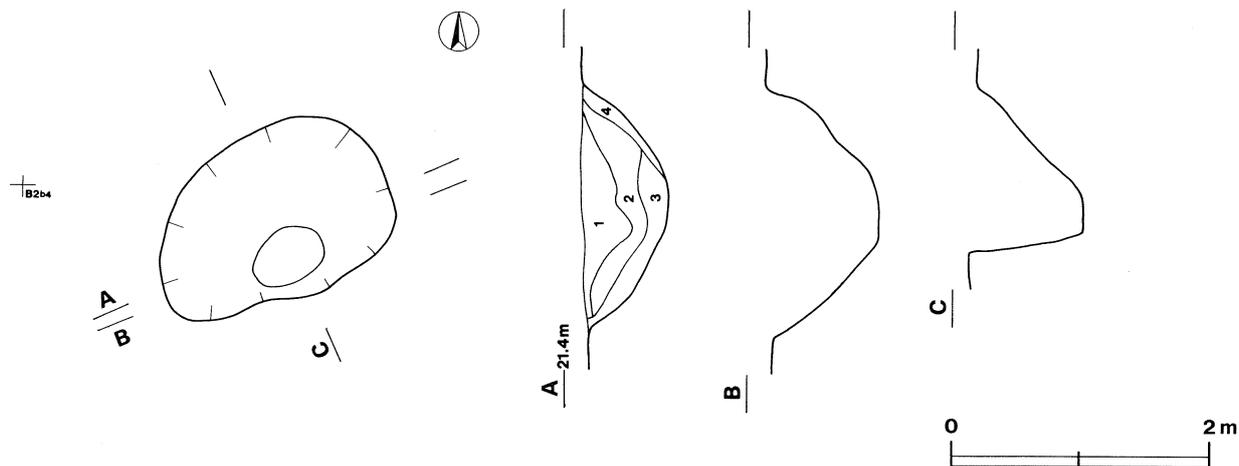
**壁面** 南側は垂直に立ち上がり，北側は外傾して立ち上がる。

**床面** 平坦である。

**覆土** 4層から成る。第1層はローム粒子中量，粘土粒子多量含む褐色土層である。第2層はローム粒子多量，ローム中ブロック少量含む暗褐色土層である。第3層はローム粒子中量，ローム大ブロック少量，粘土粒子中量含む褐色土層である。第4層はローム粒子を中量含む褐色土層である。人為堆積と考えられる。

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないことから時期は不明である。性格も不明であるが，隣接する第7号土坑と相俟って，円形土坑の中央に東西に幅30cmほどのベルトをかけたような形状をもつ。いずれも粘土混じりの同じような覆土で，壁や床面の整形もしっかりしている。両者は関わりのある施設と考えられる。



第7図 第6号土坑実測図

### 第7号土坑（第8図）

**位置** 調査区北部，B2b<sub>4</sub>区を中心に確認。

**規模と平面形** 長径2.25m，短径1.31mの不整楕円形で深さは0.95mである。

**長径方向** N-25°-W。

**壁面** 西側壁面は垂直に立ち上がり，東側壁面は外傾する。

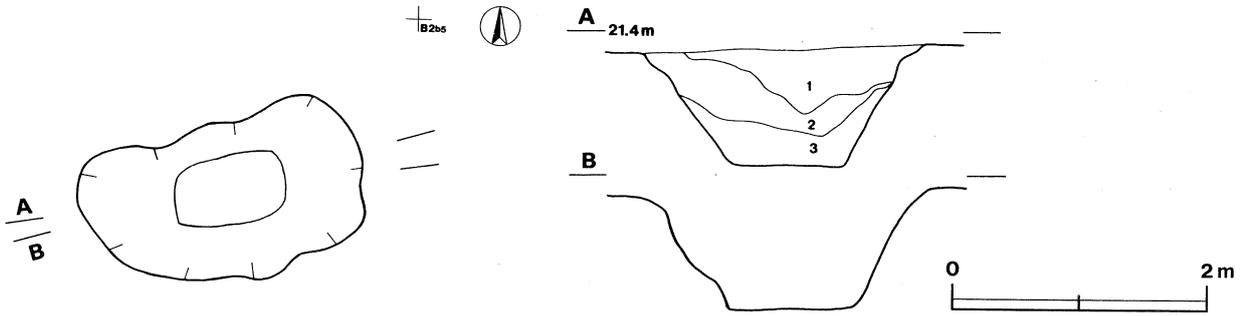
**床面** 平坦である。

**覆土** 3層から成る。第1層はローム粒子を多量に含む褐色土層である。第2層はローム粒子多量，炭化粒子微量，粘土粒子を中量含む褐色土層である。第3層はローム粒子多量，粘土粒子を中量含む黒褐色土層で

ある。人為堆積と考えられる。

遺物 出土していない。

所見 時期、性格は不明である。第6号土坑と形状がほぼ同じであることから、第6号土坑と関わりのある土坑と考えられる。



第8図 第7号土坑実測図

### 第12号土坑 (第9図)

位置 調査区中央部、B2d<sub>4</sub>区を中心に確認。

規模と平面形 長径2.15m、短径1.20mの長楕円形で深さは1.43mである。

長径方向 N-56°-W

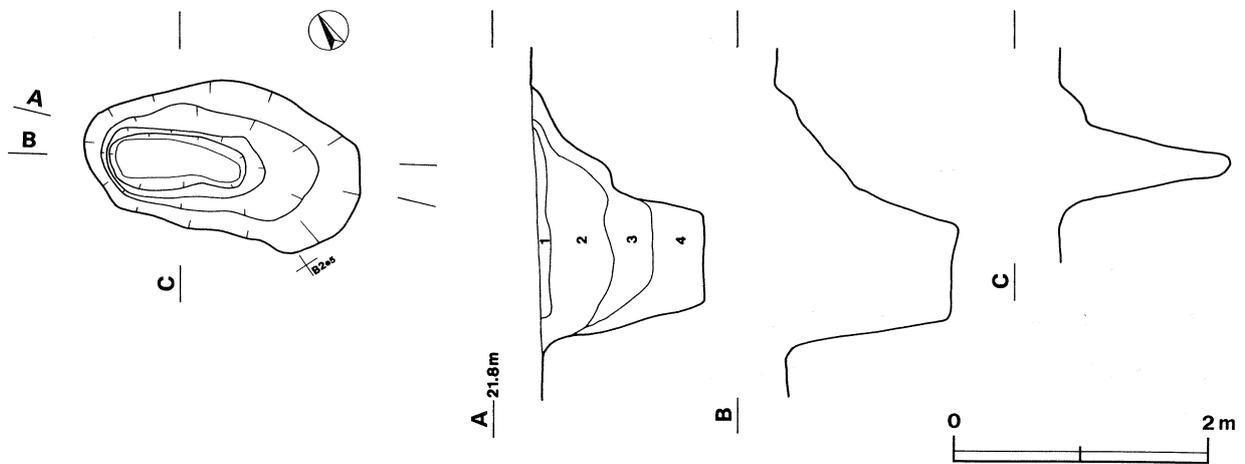
壁面 垂直に立ち上がる。

床面 平坦である。

覆土 4層から成る。第1層はローム粒子少量、炭化粒子微量含む黒褐色土層である。第2層はローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量、炭化物微量含む暗褐色土層である。第3層はローム粒子多量、炭化粒子微量含む褐色土層である。第4層はローム粒子を多量に含む褐色土層である。自然堆積と考えられる。

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないことから時期は不明である。形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第9図 第12号土坑実測図

表2 土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	番号
				長径×短径(m)	深さ(m)						
SK-6	B2b <sub>4</sub>	N-57°-E	不整楕円形	2.00×1.35	0.95	外傾	平坦	人為			
SK-7	B2b <sub>4</sub>	N-25°-W	不整楕円形	2.25×1.31	0.95	外傾	平坦	人為			
SK-12	B2d <sub>4</sub>	N-56°-W	不整楕円形	2.15×1.20	1.43	垂直	平坦	自然			
SK-25	C2a <sub>2</sub>	N-34°-E	不定形	2.45×1.55	0.61	緩傾	平坦	自然			
SK-32	C2c <sub>1</sub>	N-22°-W	不定形	2.60×2.45	0.45	緩傾	皿	自然			
SK-34	C1a <sub>0</sub>	N-79°-E	ほぼ円形	1.50×1.45	0.43	外傾	平坦	自然			
SK-35	C1a <sub>0</sub>	N-19°-E	不定形	7.70×3.65	0.36	緩傾	平坦	自然			
SK-39	C1c <sub>0</sub>	N-36°-E	不定形	5.10×4.05	0.28	緩傾	平坦	自然			
SK-43	C2e <sub>1</sub>	N-21°-E	ほぼ円形	1.80×1.70	0.32	外傾	平坦	自然			
SK-47	C1f <sub>9</sub>	N-33°-W	不整楕円形	1.60×1.05	0.45	外傾	平坦	自然			
SK-48	C1f <sub>9</sub>	N-65°-W	不整楕円形	1.90×1.40	0.48	外傾	平坦	自然			
SK-49	C1h <sub>9</sub>	N-36°-W	不整楕円形	1.35×1.00	0.30	外傾	平坦	自然			
SK-52	C1e <sub>7</sub>	N-42°-E	不定形	2.95×2.15	0.42	緩傾	皿	自然			

その他の土坑土層解説

第25号土坑 4層から成る。

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 明褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量・粘土粒子少量

第34号土坑 5層から成る。

- 1 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック少量・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック少量・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量

第39号土坑 3層から成る。

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第47号土坑 4層から成る。

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第48号土坑 5層から成る。

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 鈍い褐色 ローム粒子少量・粘土粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子少量・粘土粒子中量

第32号土坑 3層から成る。

- 1 褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量

第35号土坑 8層から成る。

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック中量

第43号土坑 5層から成る。

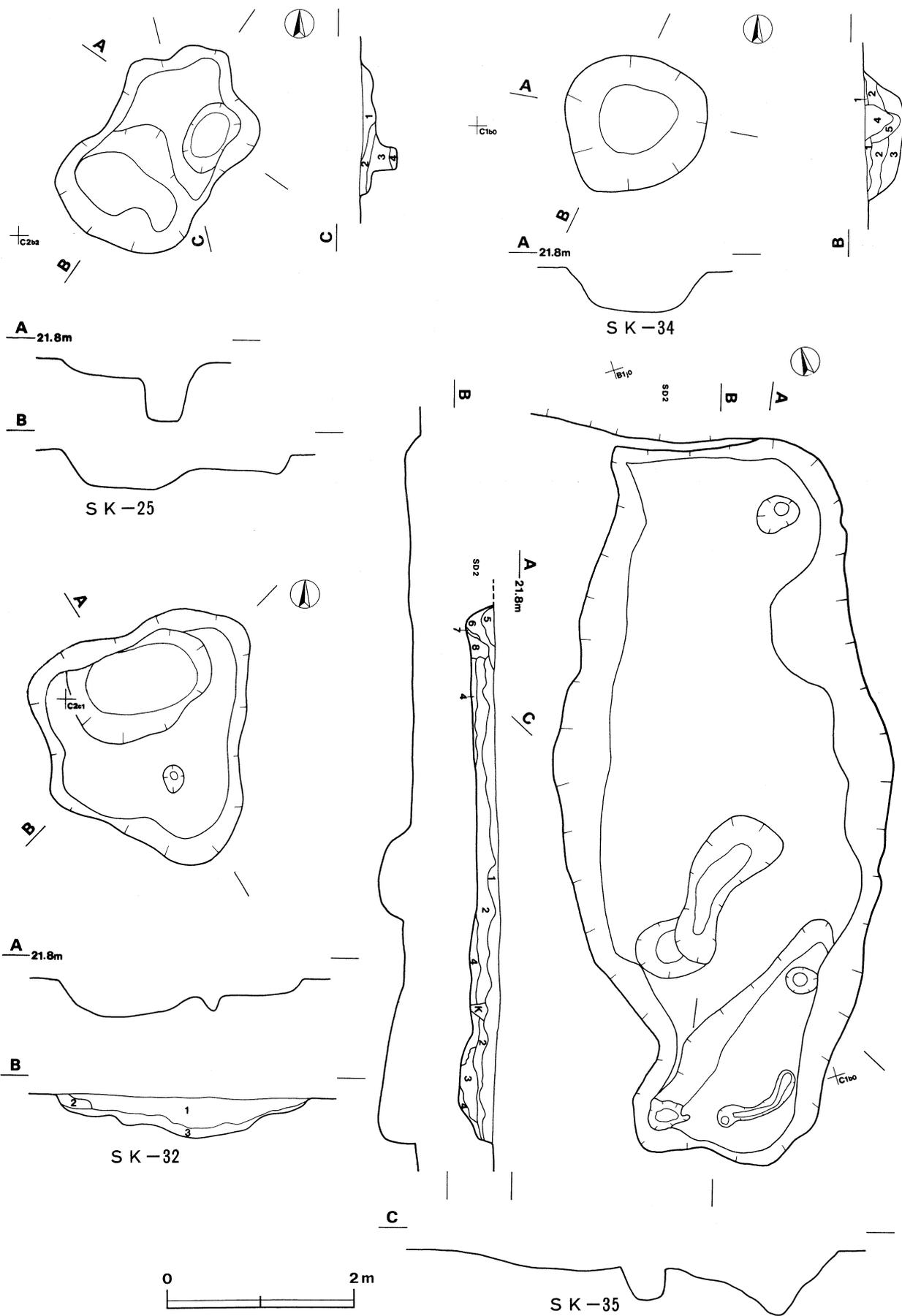
- 1 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック少量・炭化粒子微量

第49号土坑 4層から成る。

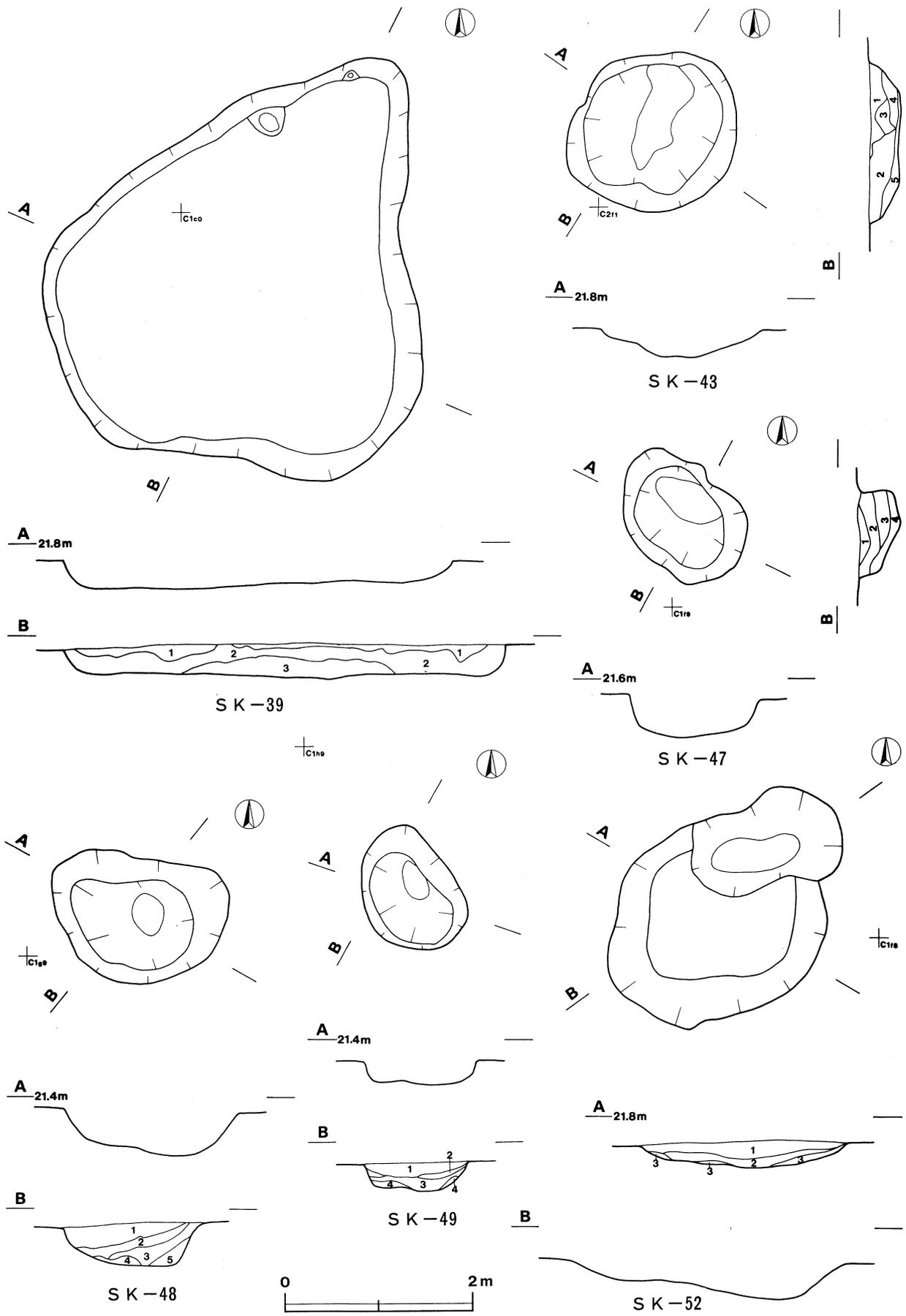
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第52号土坑 3層から成る。

- 1 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量



第10图 第25·32·34·35号土坑实测图



第II图 第39·43·47~49·52号土坑实测图

### 3 塚

本遺跡では2基の塚が確認されている。

#### 第1号塚 (第12図)

**位置** 調査区の南西部に位置する。

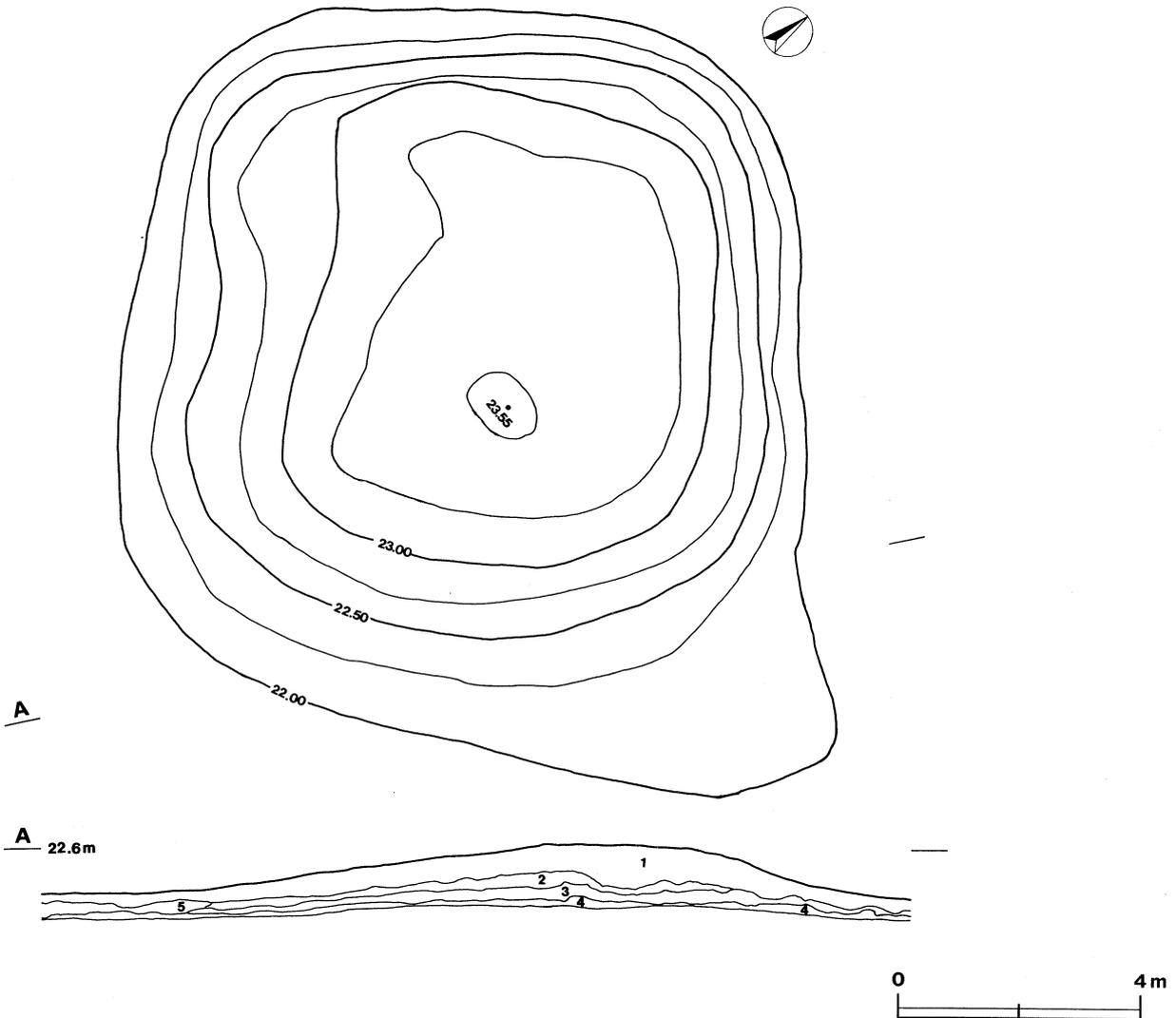
**規模と形状** 南北幅11.0m, 東西幅12.5m, 高さ1.55mで方形状を呈する。

**長径方向** N-45°-W

**盛土** 5層から成る。第1層はローム粒子を微量に含む黒褐色土である。第2層はローム粒子を中量含む暗褐色土である。第3層はローム粒子を少量含む暗褐色土である。第4層はローム粒子を中量含む暗褐色土である。第5層はローム粒子を微量に含む暗褐色土である。盛土は各層とも、突き固められた様子は見られない。

**遺物** 出土していない。

**所見** 当初、古墳として調査を開始した。盛土を突き固めた様子がほとんどないことや周りを取り囲む周溝が存在しないこと、遺物も伴わないことなどから、古墳ではなく信仰のための塚と考えられる。



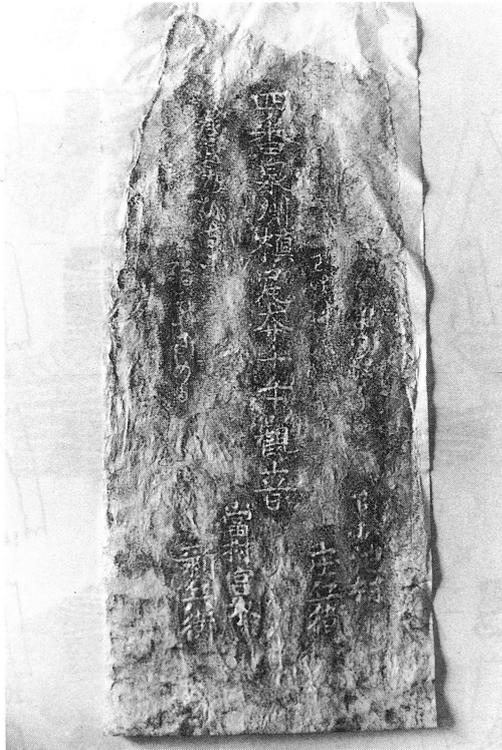
第12図 第1号塚実測図

第2号塚（付図1図）

位置 調査区の北部に位置する。

規模と形状 南北幅 3.5m，東西幅 3.7m，高さ 1.0mで不整形を呈する。

現況 塚には，正面を向いて30枚ほどの石碑が，30cmほどの間隔をおいて縦に2列に並んで置かれている。その中央一番奥まったところには観音像が祀られている。石碑の文面から，畿内の札所を巡った当村や周辺の村々から参加した者が，記念に建立したものであることが窺える。



「四番泉州植尾奔千手観音  
當村宮本新兵衛」

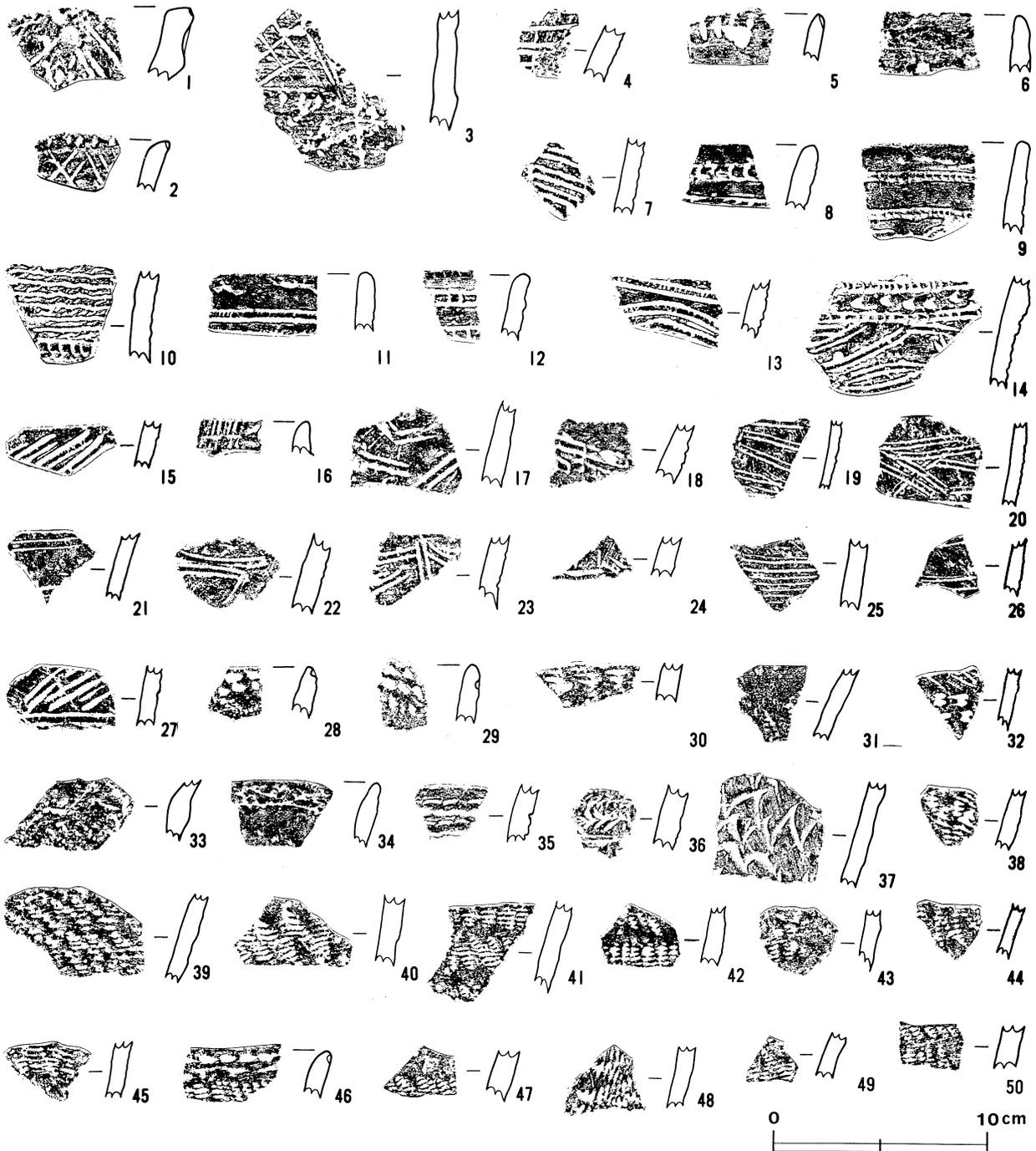


「天明七年」の年号が読める。

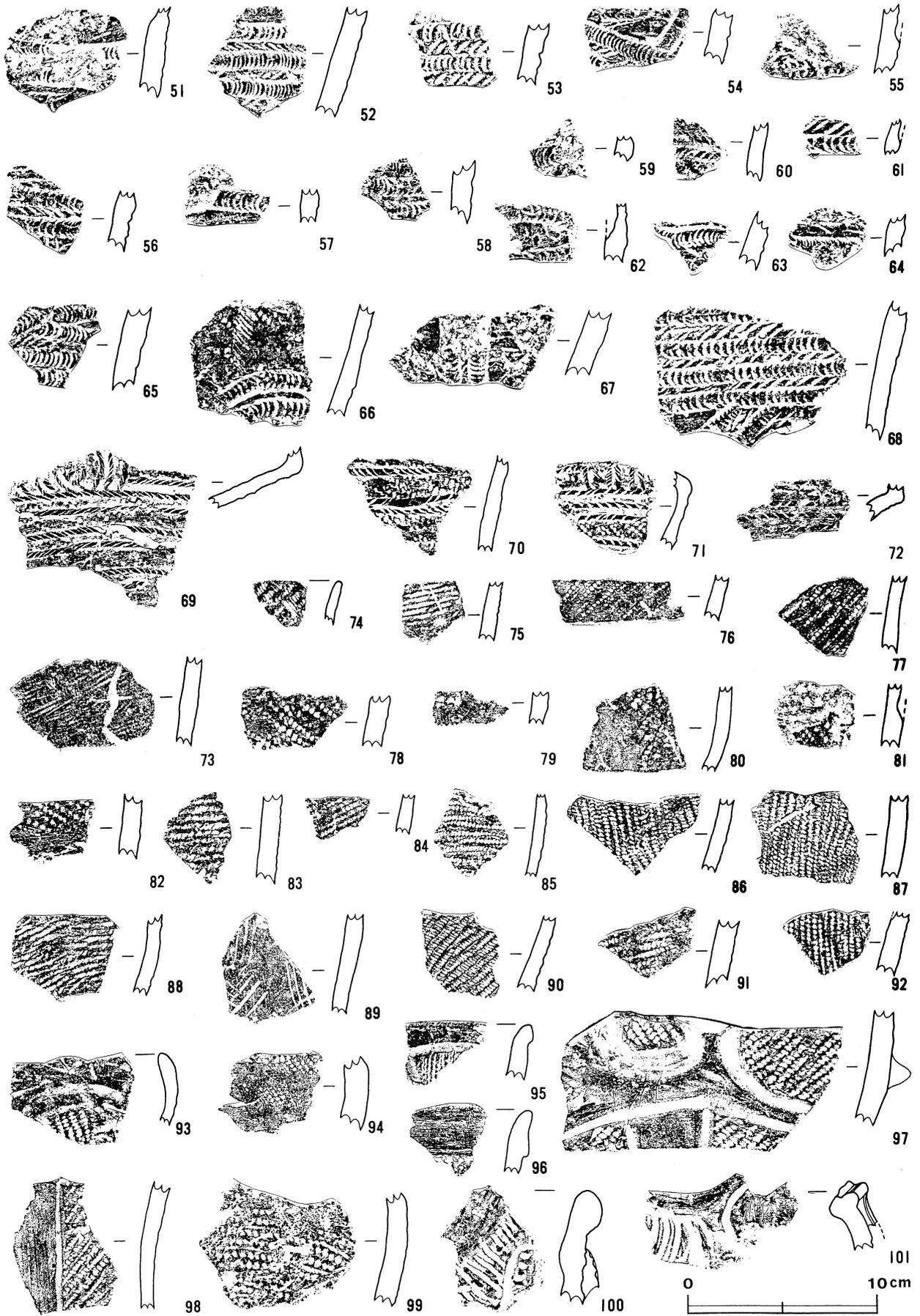
第13図 第2号塚石碑拓影図（写真）

#### 4 遺構外出土遺物

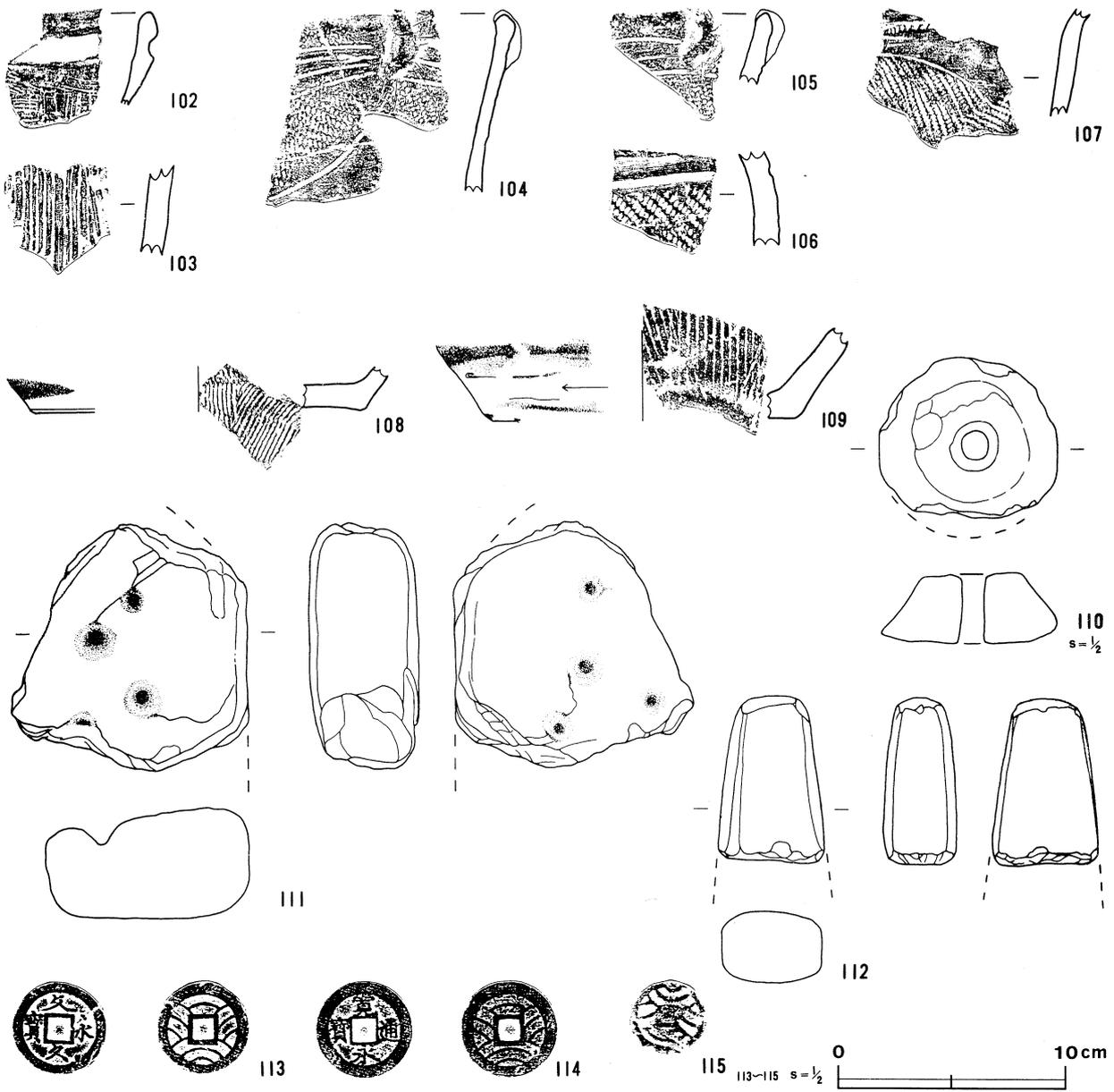
第14図の1～6は縄文早期後葉の茅山下層式土器群である。7～24, 26～50, 89は前期後葉の浮島式土器群である。第15図の51～72は前期後葉の諸磯B式土器群である。73～88は前期後葉の粟島台式土器群である。15図から16図にかけての90～103, 106は中期後葉の加曾利E式土器群である。104, 105, 107は後期後葉の安行I式土器群である。第16図の108・109は近世の挿鉢の底部から体部片, 110は時期不明滑石製紡錘車, 111は縄文時代の凹石, 112は縄文時代の磨製石斧である。



第14図 遺構外出土遺物実測図(I)



第15図 遺構外出土遺物実測図(2)



第16図 遺構外出土遺物実測図(3)

#### 第4節 まとめ

於山遺跡は、縄文時代の早期後葉から後期後葉にかけて、生活の場として利用された場所と考えられる。表面採集された縄文式土器は、茅山下層（早期後葉）・浮島Ⅰ（前期後葉）・諸磯b（前期後葉）・粟島台（前期後葉）・加曾利E（中期後葉）・安行Ⅰ（後期後葉）式土器と早期から後期に及んでいる。遺構としては陥し穴と思われる土坑（SK12）が残されている。長い間、狩猟・採集の場としてこの地が利用されてきたことが窺える。なお、当時の集落は、東側に広がる台地上に営まれていたものと思われる。

その後、当遺跡では人々の生活の跡は長らく認められない。

近世になり、この地が再び利用されるようになったため、陶磁器片や土面子などの遺物が表面採集されるものと思われる。また、第2号塚が集落のある東側の台地からは、ちょうど西方に当たることから、信仰の対象として塚が築かれ、当地や周辺に住む人々により札所巡礼の記念碑が建てられて、信仰の場として機能してきたものと思われる。

写 真 图 版

於 山 遺 跡



遺跡全景



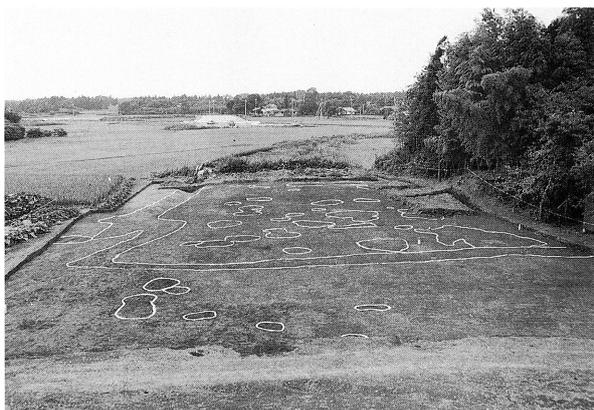
遺跡全景



グリッド試掘



トレンチ試掘



遺構確認状況(南側)



遺構確認状況(北側)



第6・7号土坑



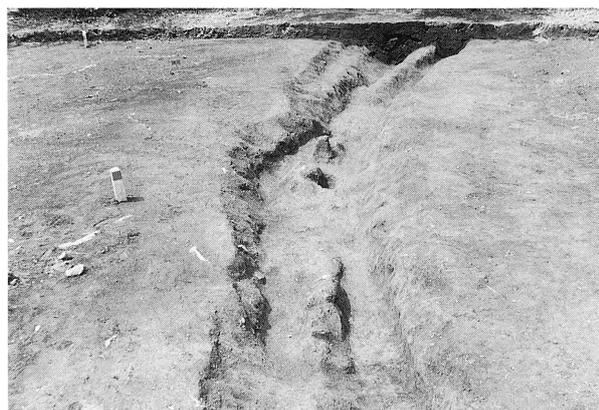
第12号土坑



第34号土坑



第1号溝



第2・3号溝



第2号溝



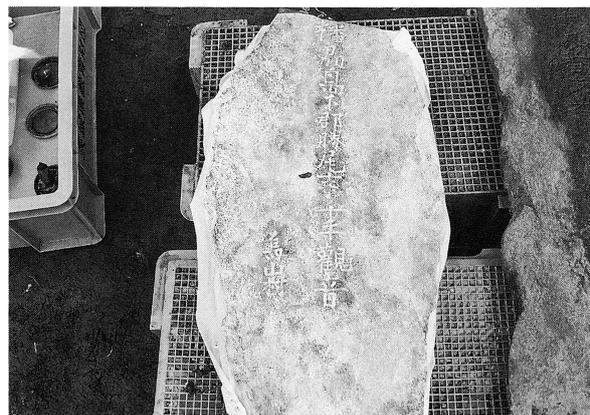
第1号塚



第1号塚



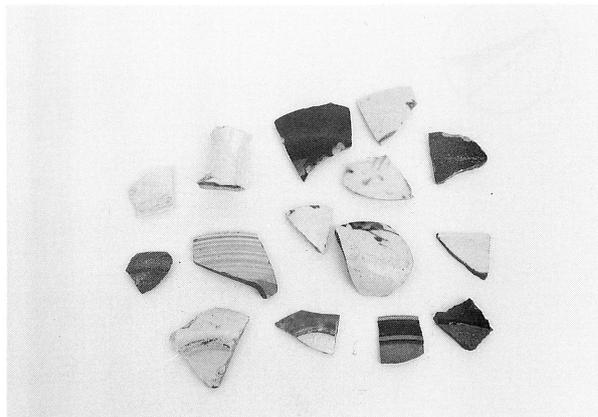
第2号塚



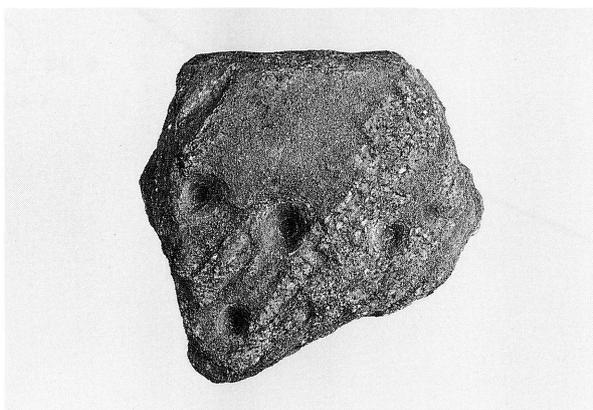
第2号塚石碑拓本



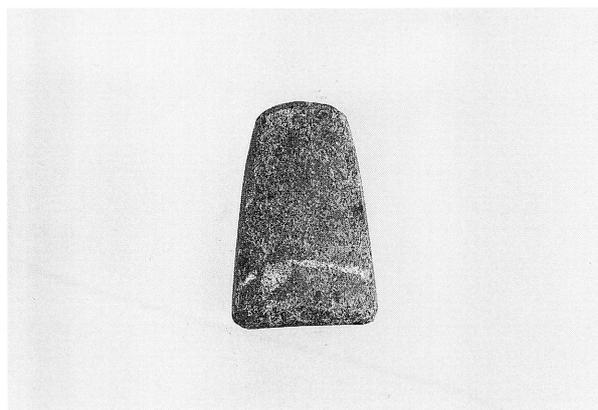
遺物出土狀況（縄文式土器）



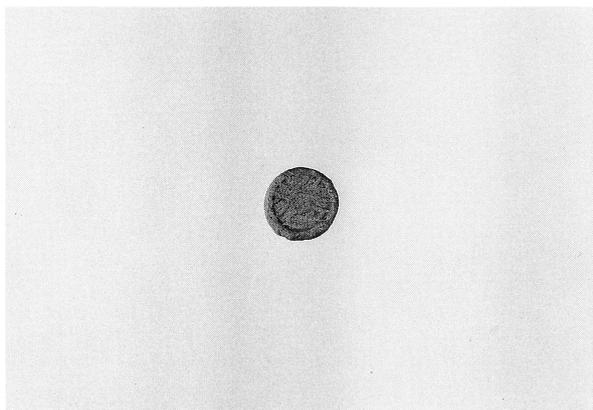
出土遺物（陶磁器）



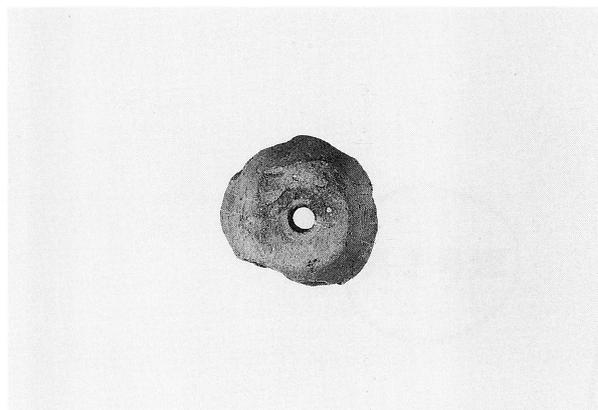
出土遺物（凹石）



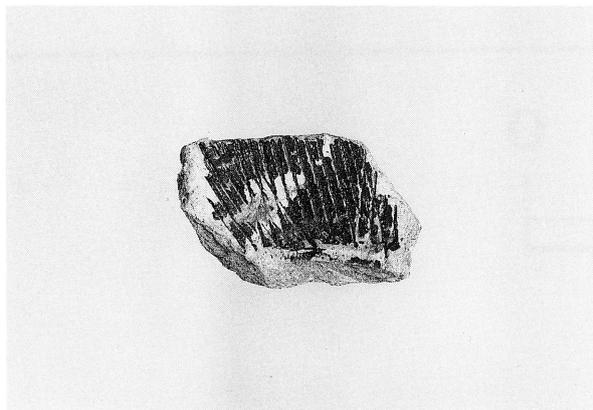
出土遺物（磨製石斧）



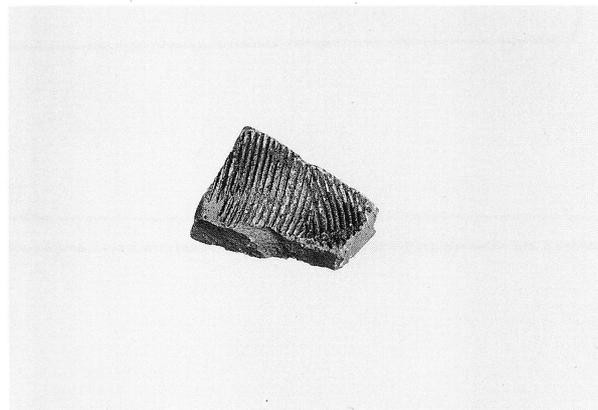
出土遺物（土面子）



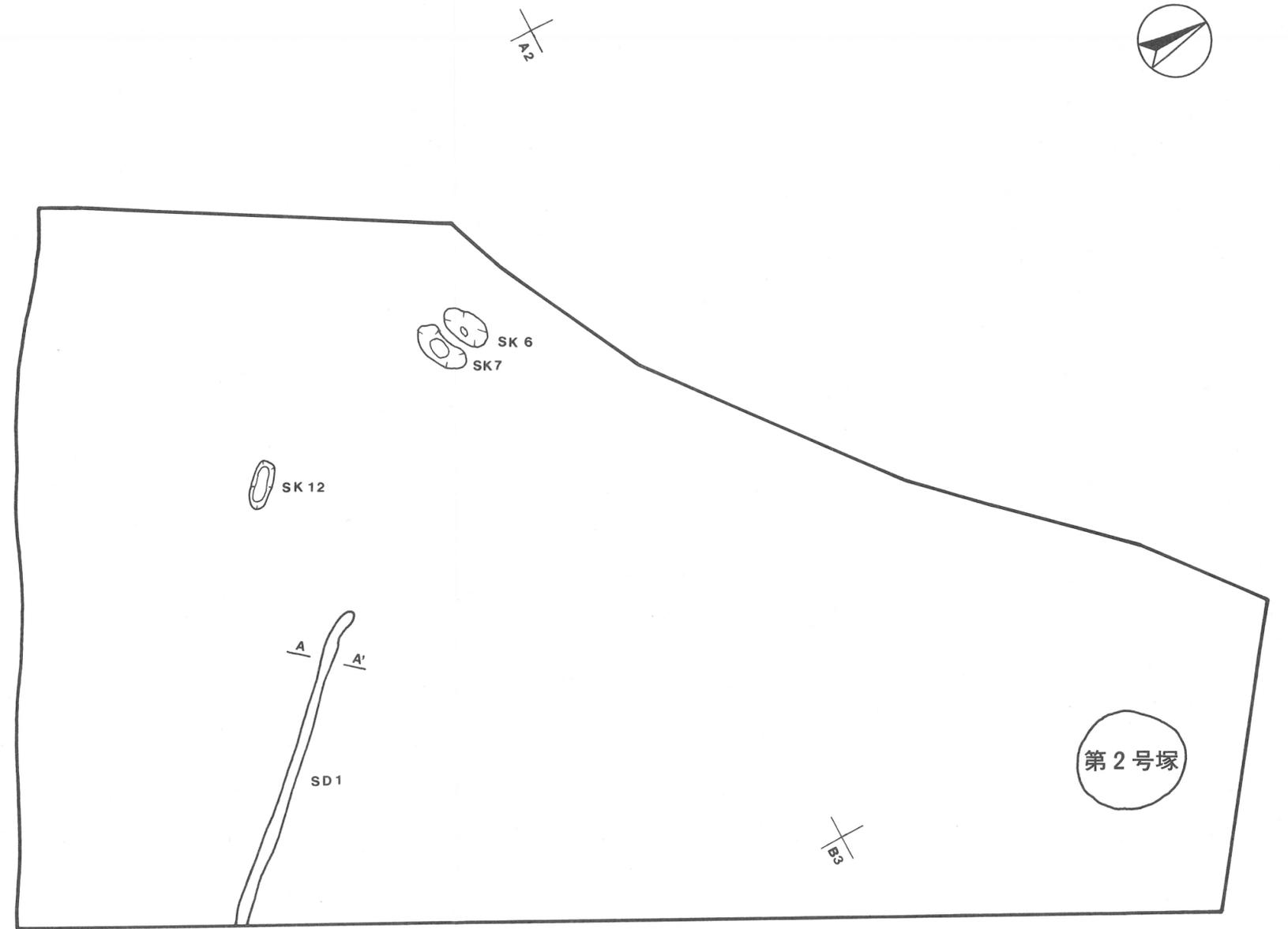
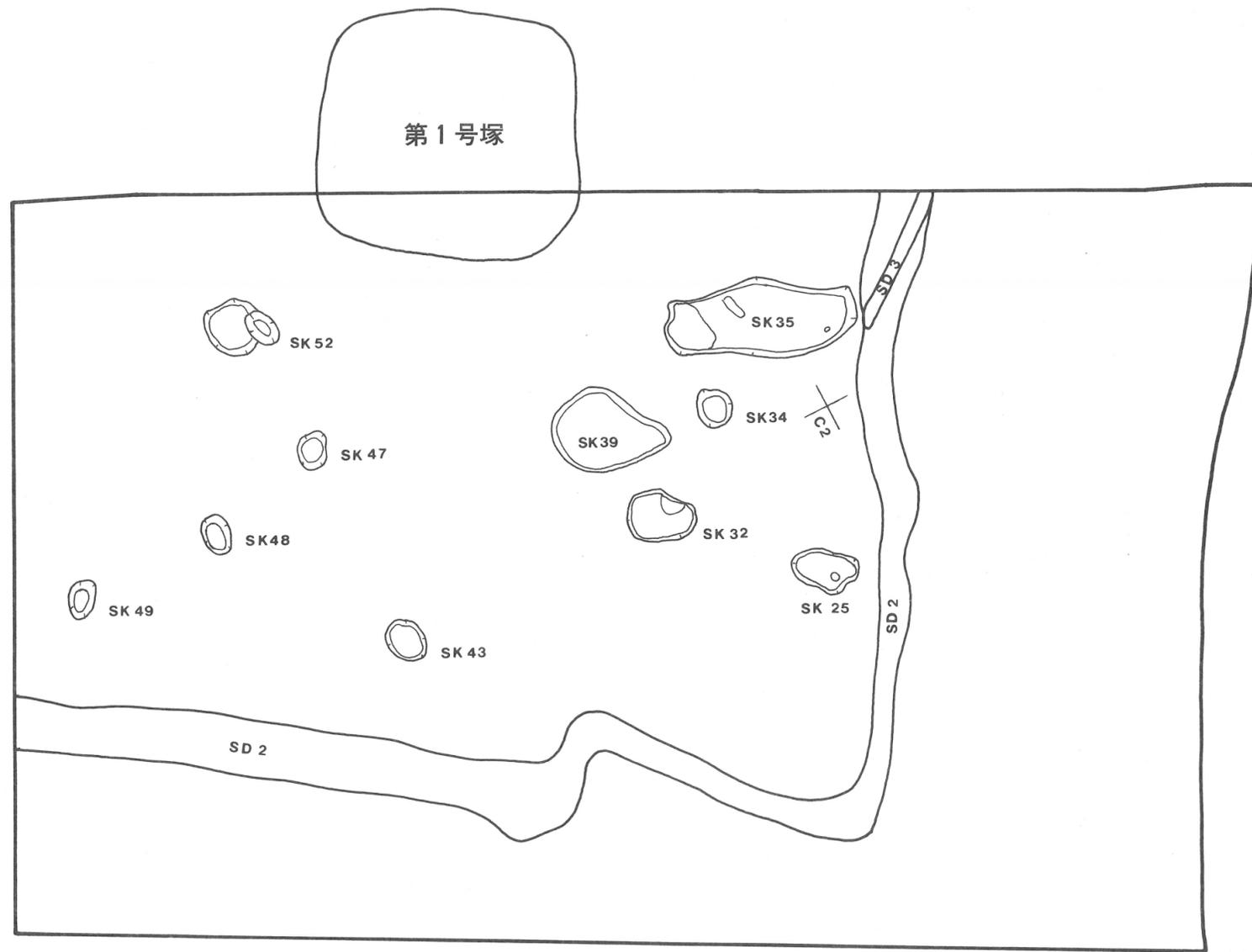
出土遺物（紡錘車）



出土遺物（搗鉢）



出土遺物（搗鉢）



付図 於山遺跡全体図

茨城県教育財団文化財調査報告第96集  
主要地方道土浦江戸崎線道路改良  
工事地内埋蔵文化財調査報告書

於 山 遺 跡

平成 7 (1995)年 3 月25日 印刷

平成 7 (1995)年 3 月31日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
水戸市見和 1 丁目356番地の 2  
T E L 0292-25-6587

印刷 株式会社 三 栄 印 刷  
水戸市谷津町 1 -50  
T E L 0292-52-6501

